

ベーやん

コメントはほんとに短いんですよ。(笑)
楽屋で喋ってる時は永遠に喋っているんですけど。

一番おもしろいんですよ。

こんなもんですよ。

自分たちの届けたい音色なら どの世代にも楽しんでもらえる

市川さん

で、もちろんその当時アリスを好きだった方たち、同世代の方とか、50代の方とかにも、その言葉は届くと思うんですが、逆に今までアリスのことを知らなかった若い世代、それこそ20代のバンド少年だったりとか、J-POPしか聴かない子だったりとか、という人たち、いわゆる今までのファンの方たちの子供たちの世代というんですか。。なんかそういう人たちに実はアリスがものすごく響くんじゃないかという期待を、私は今回持っているんですけど

ベーやん

響いてくれると嬉しいですよね。

ちんぺい

今、市川さんが仰ったように、J-POPって。。僕らもJ-POPじゃないですか。。

市川さん

あっ、そうですね。

ベーやん

カッコいいなあ、そういう風に言ってもらえると。

ちんぺい

呼び名はどんどん変わっていくんですけど、やっている人にとっては、わりとその呼び名はどうでもいいことが多い

んですよ。

自分たちの届けたい音色をしっかりと届けて、何か感じてくれたら、年齢とか性別も。。まったく僕は関係なく楽しんでもらえると思っているんですけどね。

市川さん

実際、今の時代に人力のアナログサウンドで、実はすごいいろんなことをやっているように見えて、すごいシンプルでわかりやすい。。楽曲だったり、アカペラで十分歌えるメロディだったり。。

なによりも最近はテレビの歌番組見ても歌詞がテロップで出ないと何を歌っているかわからないっていう方が多いですが。。

ここのアリスに関しては歌詞カード、テロップなくても歌っている言葉が伝わってくるっていう。。これだけでも、ものすごい新鮮なんじゃないかっていう感じがするんですけど。

ベーやん

そう言ってもらえると、うれしいですね。

ちんぺい

あと、ギターを手にして初めて弾くっていう人たちにとって、アリスは一番弾きやすいんですよ。

難しいコードを使わない。3つ覚えれば弾けるとか、4つ覚えれば弾けるとか、そういう音楽が多いんで、みんな入門としてアリスを通り過ぎていった人たちがけっこう多いんじゃないかと。

市川さん

フォークギターをちょっとでもかじろうと思えば、たいていみんな、最初にアリスをカバーするんですね。

ベーやん

簡素でほんとにもううまく。。かたまりですよ。



市川さん

ですから、お二人ボーカルと、それからドラムを叩き潰すタンバの男。

これを見てるだけでなんか。。「あ〜なんか、帰ってきた帰ってきた」っていう感じもすごくして。

そういう意味では今回の今日の記者会見、ALICEリターンズっていう名称になっていますけど、まさにリターンズという。

しかも、これから怒涛に。。これから夏、秋と届けに、各都道府県に向かわれると。まさに突っ走って、今日は話を聞かせていただいて、よかったなあと。

ちんぺい

ありがとうございます。

ベーやん

会いにきていただきたいですね。たくさんの方に。

今の自分たちのベストでやる 必ず楽しませるから待ってて

市川さん

これから行く先々の方に何かメッセージがあれば。。